

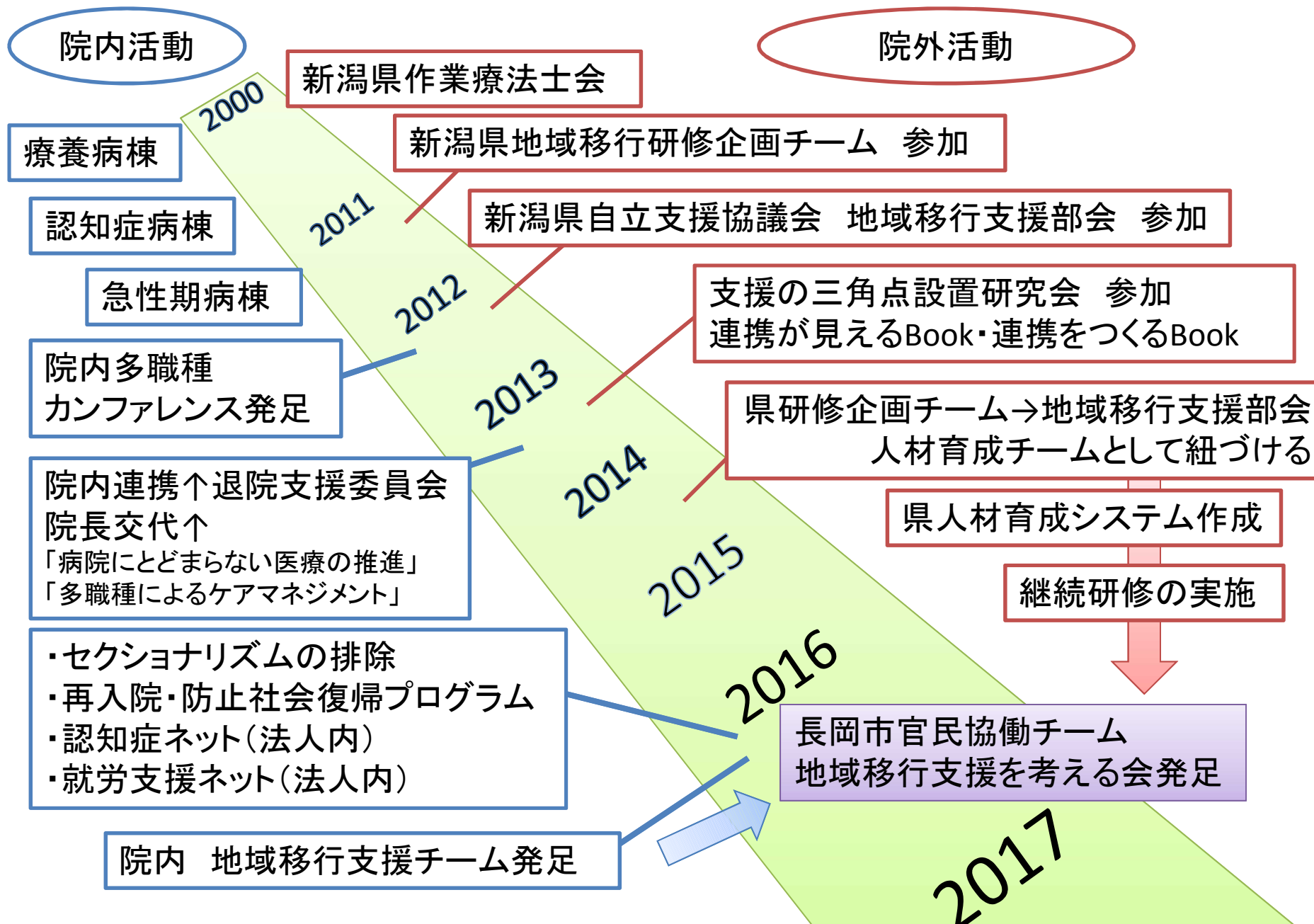
新潟県



精神障害にも対応した地域包括 ケアシステムの構築に向けた協議会の 活用について(病院の取り組み)

医療法人崇徳会 田宮病院
こころのリハビリセンター技師長
作業療法士 菊入恵一

1. 協議会(人材育成)が当院にもたらした効果



2. 協議会（人材育成チーム）への参加



| 加入年 | 行政+各職能団体 | 16名 |
|------|-------------------|-----|
| 2008 | 新潟県精神保健福祉士協会 | 2名 |
| | 新潟県精神障害者社会福祉施設協議会 | 1名 |
| 2009 | 精神科看護協会新潟県支部 | 2名 |
| 2011 | 新潟県作業療法士会 | 2名 |
| 2011 | 新潟県相談支援専門員協会 | 1名 |
| 2014 | 新潟県臨床心理士会 | 1名 |
| | 新潟県障害福祉課 | 1名 |
| | 新潟県精神保健福祉センター | 2名 |
| | 圏域センター(県委託) | 2名 |
| | 保健所 | 1名 |
| | 新潟市こころの健康センター | 1名 |

2014年 地域移行研修企画チーム → 県協議会地域支援部会の下部組織
 「地域移行人材育成チーム」に位置づけた
 予算の確保 活動の継続

人材育成チーム 16名

新潟県障害福祉課いのちとこころの支援室

精神保健福祉センター

精神科看護技術協会新潟支部

新潟県精神保健福祉士協会

臨床心理士会

新潟県精神障害者社会復帰施設協議会

相談支援専門員協会

圏域センター(県委託)

体制整備コーディネーター(新潟市委託)

保健所

新潟市こころの健康センター

新潟県作業療法士会

地域移行を推進するため中核的な人材育成・ネットワークを作っていくためのシステムを考えていくために



ワーキンググループ 8名

所属団体

新潟県作業療法士会 2名

精神科看護技術協会新潟支部 1名

新潟県精神保健福祉士協会 2名

圏域センター(県委託) 1名

精神保健福祉センター 2名

人材育成チームにおける医療からの発言(2013)

現状は・・・

- ・多くのスタッフは社会資源や福祉サービスについて知らない。
福祉サービスを使用した経験がほとんどない。
- ・それぞれの機関が果たしている機能が分からない。
各職種の役割も分からない。
- ・長期入院者は、治療方針が曖昧となっており、各職種が関わっていても協議の場がない。
- ・長期入院者の思いを聴いたとしても、それを繋げることができない。
- ・長期入院者に対するスタッフの問題意識が低い。(本人のためと思っている)
- ・病院によって、多職種の連携が進み具合はバラバラである。

これからは・・・

- ①院内連携と地域との連携の協議の場が必要で
それには、個人支援ではなくチームによって展開されることが必要。
- ②人材育成チームによる研修企画により、病院は多職種編成で参加。
病院と地域支援者による協議の場を作る。協働して病院にいる
長期入院者の地域移行を推進するためにできる事のロードマップを
作成する。
- ③これらが継続的、自律的に各病院で展開され、
患者さんへの退院支援へとつながる。

2. 地域移行支援研修(2014-2016) 継続研修の結果

ステップ1(2014 **病院単位の官民協働チーム**作り)

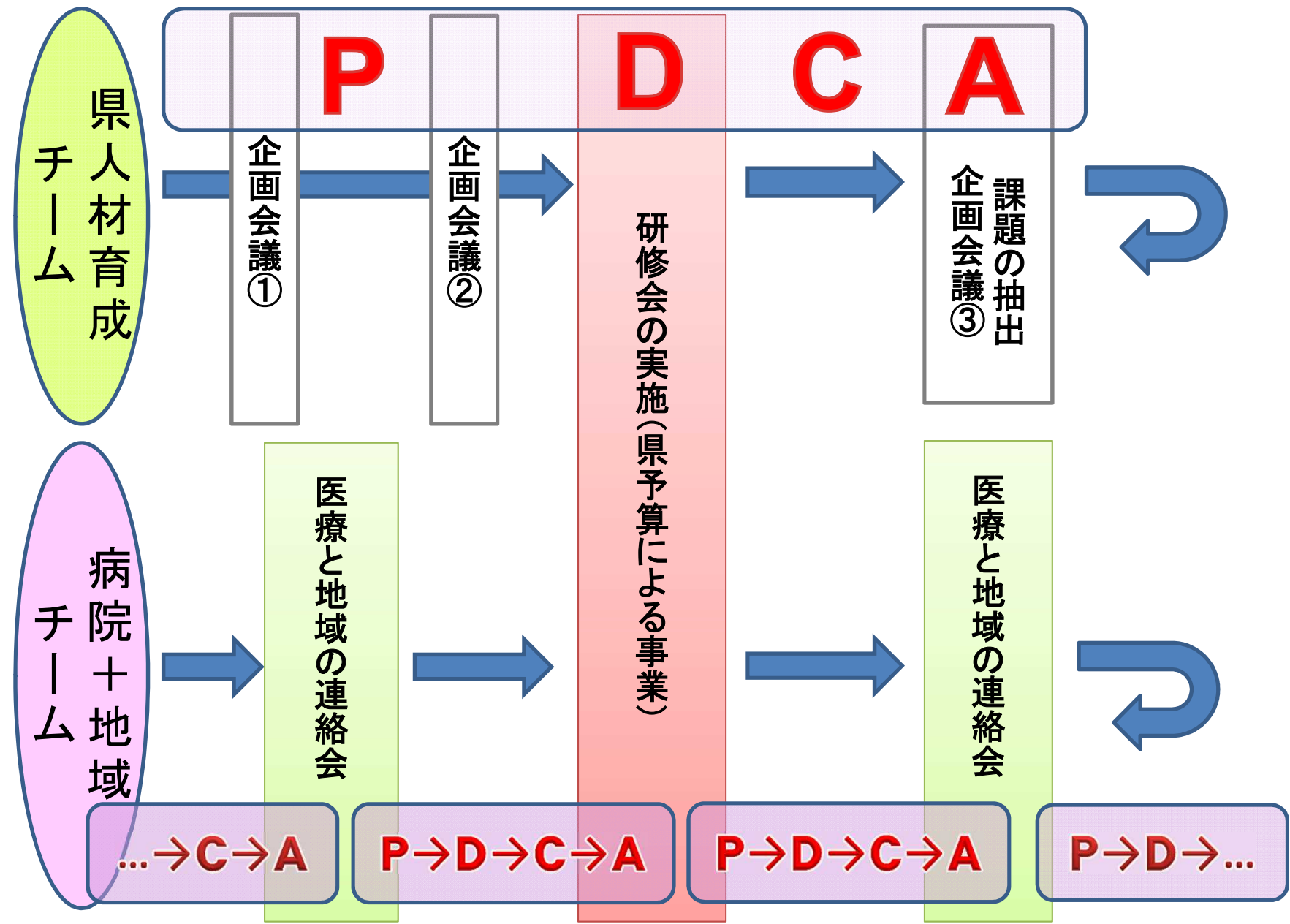
- ・医療スタッフ+地域スタッフ+行政スタッフ
- ・人材育成の為に研修プログラム(三角点ver.)を実施
この中で病院における地域移行推進のための
具体的なロードマップを作成する。
- ・県事業「病院と地域の連絡会」にて
進捗状況・修正しながら継続的な取り組み

ステップ2(2015~2016 継続的な支援)

各病院の取り組みの実践報告、情報交換、
新たな目標設定を支援

→**病院単位の官民協働チームが出来、
自律的に継続的な実践が行われていくことを目指す**

新潟版地域移行支援人材育成システム



【平成28年度 精神障害者地域移行支援研修会】 〔新潟県委託事業〕

医療・福祉・行政の相互理解と更なる協働

～チーム支援からあなたのまち創いを考える～

私たちが退院支援・地域定着に取り組もうとするとき、病院内外での他職種との連携や地域の支援者とのつながりがとても重要であることを実感します。今回の企画は、ニューロングステイ防止及び長期入院者の地域移行・地域定着に取り組むための人材育成と、医療・福祉・行政の協働チーム作りを目的にしています。県内の実践報告や県外先進地の講師による講演に加え、演習では、各病院（地域）で行える地域移行支援について、病院スタッフ＋近隣の福祉・行政機関職員が協働チームとなって検討し、更なる地域移行の推進を考えていきます。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】平成28年11月30日(水)10:00～16:30(受付開始9:30)

【会場】アオーレ長岡 西棟1階 市民交流ホールA

【参加費】無 料

【定員】100名(先着順)

【内容】裏面プログラム参照

【対象】精神科病院 障害福祉サービス事業所 相談支援事業所
市町村 保健所 その他精神障害者の地域移行・地域定着支援に関わる者

【申込条件】

<精神科病院の方>

演習では、病院での地域移行支援について検討していただく予定です。退院支援に関わる多職種4人程度のチームでご参加ください
(昨年度参加された病院は、なるべく昨年度の参加者を含めてください)。

<福祉・行政機関等の方>

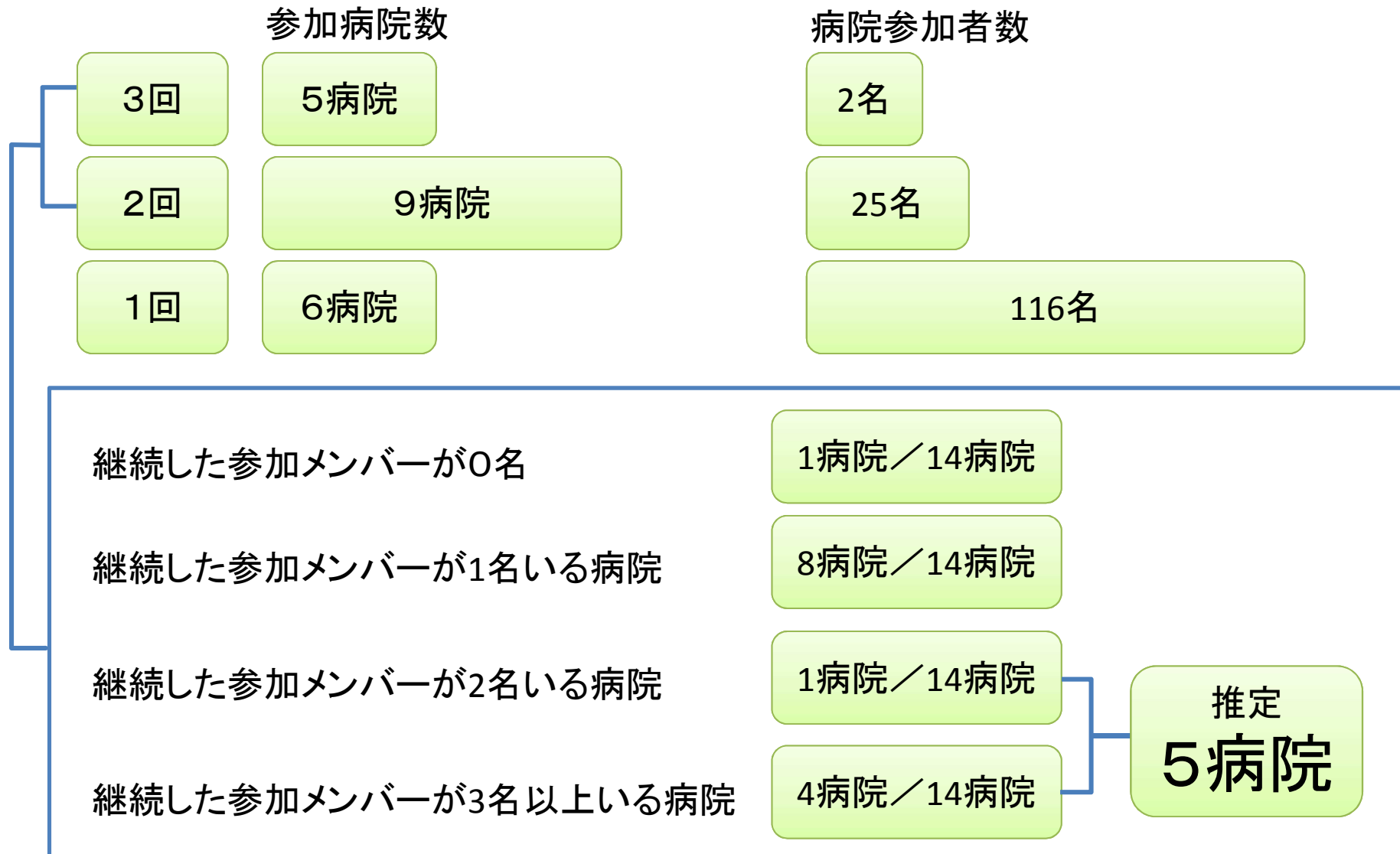
連携先となる地域支援者の視点と協力が重要です。ぜひ、精神科病院専門職とのチームづくりにご参画ください。

【主催】新潟県作業療法士会・新潟県精神保健福祉センター

【共催】新潟県精神科病院協会・日本精神科看護協会新潟県支部・新潟県精神保健福祉士協会
新潟県臨床心理士会・新潟県精神障害者社会福祉施設協議会・新潟県相談支援専門員協会
・新潟市

2. 地域移行支援研修(2014-2016) 継続研修の結果

地域移行のための 官民協働チームはできているのか？



3. 当院の官民協働チームによる活動

「療養病棟におけるロングステイを防ぎ、退院意欲を損なわないプログラム作り」

| 内容 | 目標 | 第1段階 | 第2段階 | 第3段階 | 第4段階 | 第5段階 |
|-------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | H28.12月 | H29.1月頃 | 4月頃 | 7月頃 | 11月頃 |
| 院内地域移行支援チーム | | 地域移行についての勉強会 | チーム内の意識の統一化 ・意向調査 ・病院アセスメント | 事例検討による退院支援患者のピックアップ | 勉強会の実施 | |
| 地域移行支援を考える会 | 療養病棟におけるロングステイを防ぎ、退院意欲を損なわないプログラム作り。 | ・目標の共有 ・病院の取組みについて知る。 ・地域のできることに ついて知る。 | ・病院外の地域生活に目を 向けたプログラムを 検討。 | ・地域移行の一連の 流れイメージで できるプログラムを 検討。 | ・支援者の具体的 役割がイメージで できるプログラムを 検討。 (家族支援につ いても) | 機能を合併し。 地域移行支援 チームへと移行 ...? ・退院後の支援に ついてイメージ できるプログラム を検討。 |
| アプローチ方法 | 個別プログラム ↓ マネジメント | プログラムを通し、地域移行支援について知り、実際に 利用し地域移行を目指す。 対象：ニューロングステイ、 あゆみの会の第2段階より も上のステップにいく人 | ステップ アップ | ・地域移行支援について 知る(どのような方が支援 してくれるのか。制度説 明) ・実際に地域移行支援利 用者の体験を聞き、イ メージを持つ。 ※地域移行支援の希望 について確認。 | ・地域支援者の具体的 な役割について知る。 ※地域移行支援の希望に ついて確認。 ※地域移行支援希望者の 利用導入。 | ・退院後の支援(地域定 着支援)について知る。 ・あゆみ会活動について、 病棟報告会。 ※地域移行支援の希望 について確認。 ※地域移行支援希望者 の利用導入。 |
| | 集団プログラム (あゆみの会) | プログラムを通し、地域移行支援について知り、実際に 利用し地域移行を目指す。 対象：長期入院者 ニューロングステイ | | ・やってみようことを実現 する。成功体験を積み重 ねる。 希望を語る。 ・病院を退院した仲間を 通し、地域施設(生活訓 練施設、グループホー ム)について知る。 ・ピアサポや地域支援者 との交流を続け、地域に も仲間がいることを知る。 | あゆみの会を今よりも対象を広げ、可能性を探る導入 グループとする。 集団プログラムでは第2段階までとし、地域移行支援 へとステップアップできそうな人、退院意欲出てきた人 へは、個別プログラムとして多職種チーム、上記2つ のチームの中で個別で進めていく。 | |

馴染みの関係づくりを目指す

退院意欲アップ
意思表示支援

地域支援者＋
退院者との交流

安心して暮らす
サポート構築

「地域移行支援を考える会」の自律化を図るために

1. 定期的な開催(1か月に1回)
2. あゆみの会の運営協力(地域支援者とピアの参加を促進)
効果的な退院意思表示支援の実施を行っていく。
3. 福祉サービスについて、スタッフへの人材育成
地域支援者からの講義
4. 退院が見込める患者のケース検討会の実施
地域支援者の視点の導入。土足で入れる関係づくり
5. 長岡市協議会への、地域課題検討へ繋げ、安心して過ごせる街づくり

まとめ

第1期「県官民協働チーム協働」

研修企画による協働
県の地域移行推進の
システムの作成→自律化

県官民共同
協働作業
「県内研修企画」
顔の見える関係
目標の共有

第2期「病院単位の官民協働チーム協働」

協働の実践 報告
PDCAを回す機会の確保

病院単位
地域移行チーム
協働作業
「本人中心の支援の
為のロードマップ作り」
顔の見える関係
目標の共有

第3期「安心して暮らせる街づくり」

病院単位チームから
各圏域の課題を挙げていく
当事者が安心して暮らせる
街づくりへ

